

エペソ人への手紙 4 章 1-16 節

御霊の一致を保ちなさい。

はじめに

今日は、先週の年次総会で正式に主任牧師として選ばれてから初めてのメッセージとなりますが、総会では、投票の前の質疑応答の時に質問を受けました。「OICの牧師としてどのようなビジョンを持って働きますか？」という質問です。その時にエペソ人への手紙4:3「平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。」という聖書箇所を主に思い浮かべ、聖霊の一致について話ながら、信者の一人一人の賜物が生かされている教会は理想的だと申し上げました。その時にはわかりませんでしたでしたが、家に帰ってから聖書を見て確認したら、自分の言った事が全部同じ、一つの聖書箇所に書かれている事が分かりました。神様は今日その箇所から話すように明確に導いて下さっています。

エペソ人への手紙4：1-16

4:1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。

4:2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、

4:3 平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。

4:4 からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。

4:5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。

4:6 すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。

4:7 しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。

4:8 そこで、こう言われています。「高い所に上られたとき、彼は多くの捕虜を引き連れ、人々に賜物を分け与えられた。」

4:9 ——この「上られた」ということばは、彼がまず地の低い所に下られた、ということではなくて何でしょう。

4:10 この下られた方自身が、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方なのです——

4:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。

4:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、

4:13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです。

4:14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、

4:15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。

4:16 キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。

1. 召しにふさわしく歩む。(1節)

御霊の一致を保つことができる時、イエス様の信者としてふさわしく歩んでいると書いてあります。同じ事を言い換えれば、イエス様の信者としてふさわしく歩む為に聖霊の一致を保つようにする必要があります。教会の中で、またどこであっても、イエス様の信者同士の交わりを壊すような事をすればイエス様の信者としてふさわしく歩んでいません。その次の2節には、それを実行する為に何が必要かが書いてあります。面白いことに今まで見て来た八の至福の一番最初に書いてある二つのことで、イエス様の人格の特徴と同じであり、しかも、イエス様自身がご自分の人格を説明した時に使った二つの言葉です。

2節には「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」とあります。謙遜と柔和を尽くさなければ聖霊の一致を保つ事が出来ないと書いてあるのです。その上に、愛の一番最初の特徴である寛容を示し、互いにしのび合いなさいと書いてあります。

第一コリント13:4「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。」

英語でlong sufferingというのは、直訳すると「長く苦しんでいる」、日常会話で使っている忍耐よりも、もっと強い言葉です。耐え忍ぶ、辛抱強くと言う意味です。キリストの愛ですから、自己犠牲的な愛です。これらのものを尽くして熱心に聖霊の一致を保ちなさいと命令されています。

3節「平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。」平和の絆で結ばれているのを赦し合いの中で熱心に保ちなさいと言う意味です。

と言うことで、聖霊の一致を保つのがどんなに難しい事か、どんなに大切な事か分かるはずです。

イエス様の大祭司の祈りを見て下さい。イエス様がこの地上での最後の時に自分の全ての信者の為に捧げた祈りですから、クリスチャンにとってこれよりもっと大切な事はありません。

ヨハネ17：20-22

「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。

17:21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。

17:22 またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。」

21節「その事によってあなたが私を遣わされた事を世が信じる為です」これはイエス様の最強の証になっています。そして、それを実現する為にご自身の栄光を私達に与えて下さっています。私達がこれを最優先にして大切にすればイエス様の名前にふさわしく歩んでいる事になります。

2. 神の子どもとしての多くの共通点

私達は聖霊の一致を作る事は出来ませんが、幸いにも作る必要はありません。最初から、神の子どもとして新しく生まれた時から、すでに与えられています。その意味でイエス様は彼らが一つになる為に、「私の栄光を彼らに」与えられました。最初から他の信者達と兄弟としての共通点がたくさん与えられています。

4:4 「からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。

4:5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。

4:6 すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。」

皆が神の家族として同じ体の一部になっています。全く同じ神様の聖霊が一人一人の中に住んでいます。イエス様を信じる事によって与えられている希望も同じです。私達はみんな同じ主を持って

います。その主イエスによって与えられている信仰も同じです。キリストの死と新しい復活の命のバプテスマは同じです。最後に最初と同じ点を更に強調しますが、同じ父なる神様の家族です。複数の子どもの親になったことのある人であれば誰でも分かりますが、全ての点で全く同じ子どもはいません。双子でも違う点を持っています。

でも、その浅くて表面的な違う点ばかりを見て嫌な思いを持つのではなくて、その違う点を認めて赦し合い、受け入れ合うことが聖霊の一致です。

教会として、神様の家族として全ての点で同じ考え方をする必要はありません。十分に共通点があるから、その共通点に焦点を合わせてそれ以外の所を気にせずそのまま受け入れ合う事が聖霊の一致です。私の生まれ育った国は小さくて教会も保守的で、ある教会や教団の信者は皆同じ服装や髪形などをして外見的な面まで一致しています。もっと素晴らしい一致はお互いの違いを認めてそのまま受け入れ合う一致です。

神の子どもとして与えられている共通点が十分あるし、外見的な浅い物ではなくて深いものですからイエス様の為に一緒に戦って行けば、増々絆が太くなって成長します。

実際に戦って来たことのある兵士達の話聞けば、彼らが一番強調することは、一生忘れられない兄弟としての絆が太くなったという事です。兄弟のような絆で相手の為に死ぬ事が出来る程です。私も紛争の中である程度、実際に経験して来たので分かります。クリスチャンの兄弟姉妹の絆はそれと似ているもので、イエス様はそれを命令として与えて下さっています。「私があなたがたを愛したように互いに愛し合いなさい、これが私の新しい命令です。」つまり、クリスチャンの兄弟姉妹の為に自分を犠牲にして命でも捧げる愛です。本当にイエス様の働きの為に共に戦ったら、そこまで絆が太く成長します。

詩編133:1。「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんとというしあわせ、なんとという楽しさであろう。

133:3 それはまたシオンの山々におりるヘルモンヘルモンの山の露にも似ている。主がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。」

主がそこに、とこしえの命の祝福を命じられるのです。聖霊の一致を保つ事は、神様が教会の上に祝福を与えられることの条件です。

3. 皆が賜物を与えられている。

4:7-8節「しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。

4:8 そこで、こう言われています。「高い所に上られたとき、彼は多くの捕虜を引き連れ、人々に賜物を分け与えられた。」

教会の働きに何も貢献出来ない人は一人もいません。この箇所では前に立って教える奉仕をする役目だけが書いてありますが、他の箇所にはもっと詳しく書いてあります。

長すぎて今読む時間はありませんが、第一コリント12章です。信者に与えられている賜物について一番詳しく書いてあります。結論だけ言いますが、一人の信者が他の信者より大切なのではなくて皆、同じぐらい大切です。目は耳に向かって「あなたは要らない」と言えないのと同様に、信者に与えられている賜物は自分だけの為ではなくて、皆の為に与えられています。

エペソ4 : 12-13 「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、4:13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達する為です。」

賜物を与えられている目的ははっきり書いてあります。信仰の一致と神の御子に関する知識の一致に達し、完全に大人になって悪魔の策略に振り回されないで、どんな時でも平安の中で過ごす為です。それは次の14-15節に書いてあります。

4:14 「それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばされたりすることがなく、

4:15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。」

皆さんをびっくりさせる発言をしますが、クリスチャンはいつでも真理を語るべきなのではありません。ここに書いてあるように愛を持って真理を語る事が必要です。イエス様の信者として成長して大人になっている証拠の一つは、愛を持って真理を話せるようになるということです。それまで、わざと相手を傷付ける為に真理を語る事が出来てしまう場合もあります。愛を持って真理を話すことができる為に黙るべき時もあります。イエス様の事例を模範として見ましょう。

ヨハネ16:12 「わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。

16:13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。」

イエス様も真理の御霊も真実しか話しませんが、自分勝手に話す事はありません。いつも相手の心の状態を考え、相手の心に傷を付けたり、つぶしたりする話し方はしません。今の段階で真理の全てを話したら、弟子達の心はそれに耐えられないという事を知った上で、イエス様は聖霊に任せておいた時もありました。

イザヤ書42:3の「傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消さない」というイエス様の優しさと謙遜を思い起こします。

どんなに小さい信仰でも、何よりもそれを大切に守り育てて下さるのがイエス様です。私達も真理を語る時に、勝手に自分の言いたいまま全部を言う権利はありません。特にイエス様の信者に対して話す時には気を付けなければなりません。

マタイ18：6-7はイエス様の最も厳しい言葉です。

18:6 「しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまづきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。

18:7 つまづきを与えるこの世は忌まわしいものです。つまづきが起こることは避けられないが、つまづきをもたらす者は忌まわしいものです。」イエス様にとって、最も小さな信者や最も小さな信仰を持っている信者を大切にすることは、イエス様自身を大切にしていることだ、という意味です。

まとめ

言葉によってつまづきを与えてしまうのは一番簡単であると同時に、聖霊の一致を一番簡単に壊すのも言葉なのです。それで、次のような厳しい警告もあります。

ヤコブ3:1 「私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。

3:2 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。」

いつも、つまづきを与えないようにすると同時に、聖霊の一致を保つ為に熱心に謙遜と柔和と愛を尽くしましょう。